

令和3年度

第2回
地域自立のための「人づくり
・学校づくり」実践委員会

議事録

令和3年9月14日（火）

第2回 地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会 議事録

1 開催時期 令和3年9月14日（火） 午前10時から12時まで

2 開催の場所 県庁別館8階第1会議室A、B、C

3 出席者

| | |
|------|------------|
| 委員長 | 矢野 弘典 |
| 副委員長 | 池上 重弘 |
| 委員 | 片野 恵介 |
| 委員 | 加藤 暁子 |
| 委員 | 佐々木 敏春 |
| 委員 | 白井 千晶 |
| 委員 | 藤田 智尋 |
| 委員 | 藤田 尚徳 |
| 委員 | 星野 明宏 |
| 委員 | 松村 友吉 |
| 委員 | マリ・クリスティーナ |
| 委員 | 宮城 聡 |
| 委員 | 森谷 明子 |
| 委員 | 山浦 こずえ |
| 委員 | 山本 昌邦 |
| 委員 | 渡邊 妙子 |
| 知事 | 川勝 平太 |

4 議 事

(1) 報告

- ・令和3年度第1回静岡県総合教育会議開催結果
- ・静岡聖光学院中学校・高等学校視察調査（報告）

(2) 意見交換

- ・誰一人取り残さない学びの保障
- ・大綱及び教育振興基本計画の基本的な考え方

(3) その他

| | |
|--------------|--|
| <p>事務局：</p> | <p>それでは、委員の皆様おそろいになりましたので、ただ今から、令和3年度第2回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会を開催いたします。本日はお忙しい中、御出席いただき、誠にありがとうございます。なお、本日は、里見委員、豊田委員が所用のため欠席となっております。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、知事より御挨拶を申し上げます。</p> |
| <p>川勝知事：</p> | <p>皆様、おはようございます。</p> <p>今日は、こういうコロナ禍でございますものですから、ウェブによる開催となりまして、御出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今回のタイトルは、一番大きいのは、大綱及び教育振興基本計画の基本的な考え方について、皆様方の御意見を賜るということが柱になるかと存じます。</p> <p>私どもは、今回オリンピック・パラリンピックを終えまして、また昨日は将棋の藤井聡太君が19歳で三冠を獲得するなど、様々な才能を持った方々が、日本人に対して大きな励ましといただきますか、このコロナの中で、ここまで人は頑張れるんだと、自分もと、こういうのを日々目の当たりにしているわけです。</p> <p>今、スポーツでは、大谷君が果たして、いつ45号、46号を打つかとか、そういう、またいつ10勝を上げるかということもございますけれども、これが内外の関心になっているということです。</p> <p>そして、何といたってもオリンピック・パラリンピックで、障害者の杉浦佳子さんが50歳で2つの金を獲得されるとか、あるいは伊藤美誠さんや水谷隼君が金メダルを獲得するとか、ほとんど負けるかと思っけていても逆転で2人が力を合わせて金メダルを取ったとか、こういう才能というものが人を感化する、人の徳を磨くという、こうしたものをこの数か月目の当たりにしてきたんじゃないでしょうか。</p> <p>我々は、徳のある人ということでございますが、これは仁・義・礼・智・信等々、あるいは忠とか孝とかですね、こうしたものを全部総称しているのが徳というものでありますけれども、人は徳を身に付けるいろんな道があると。そこで、我々、これは矢野さんの御本にもございますけれども、才徳兼備と、1つの才能を持って自分の持ち味を出しながら一生懸命努力をすれば、おのずと徳が身につくと、こういうことでもございましょう。</p> <p>そうしたことが柱にはなっておりますけれども、ICTを活用しなければならない時代でもございます。また、SDGsと、そのモットーの一つは「誰一人取り残さない」ということでもございます。誰一人取り残されないように、人々が生まれてきた寿命をことほぎて、そして幸せになっていくと。その中で一番大切なのが教育ということで、社会総がかり、地域自立のための、そういう実践委員会をここで今やっているわけでございます。</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>今日も、今回は令和3年度第2回目になりますけれども、限られた時間でございますけれども、意見賜りますようお願い申し上げたいと存じます。よろしく願いいたします。</p> |
| 事務局： | <p>それでは、議事に入りたいと存じます。 これからの議事進行は、矢野委員長をお願いいたします。</p> |
| 矢野委員長： | <p>皆さん、おはようございます。 皆さん、第2回の実践委員会に御参集くださいましてありがとうございます。毎回大変充実した意見交換がなされておりまして、幸いにして、これが総合教育会議の場で、賛同を得まして、新しい道が開いていくということが毎回続いておりまして、大変心強いことだと思っております。今日は、いろいろ議題もございますので、議事に従って進行します。</p> <p>初めに、本年度の第1回静岡県総合教育会議の開催結果について、私から御報告申し上げます。7月6日に開催されました総合教育会議で、私は実践委員会を代表して出席させていただきました。実践委員会の意見は、その場で御報告しまして、そして、総合教育会議で論議された内容につきましては、出席者発言要旨にまとめております。</p> <p>詳しくはお読みくださればよろしいと思いますが、かいつまんで御報告いたしますと、初めに、「ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成」については、ICTの活用方法に関して、1つ目の、生徒一人一人、教員全員が自らを育み、新たな教育手法を取り入れるためにICTを使いこなしていくことが大切であると、2つ目の、人工知能やAI、ICTを組み合わせ使いこなすことで、基礎教育を充実していくことが可能といった御意見がありました。</p> <p>また、3つ目に、ICTを全く使わない時間をあえて計画的に教育の場に取り込んでいくと、生身の接触、あるいは情操教育といったようなことでもあります。そういうことが必要である。あるいは、6つ目に、業務の効率化にICTを活用するという目線をもっと持ってほしいという御意見もありました。</p> <p>さらに、ICTの機器に関しましては、下から3つ目の、更新の時期にどうするかという準備を行っておく必要があるといった、今後直面する現実的な課題についての御指摘もありました。</p> <p>次のページへ参りまして、2つ目になりますが、図書館の大きな役割として、デジタルコンテンツを整備して提供していくことを考えてほしいと、図書館の新たな役割に関する御提案がありました。</p> <p>4つ目に、授業動画の評価や点数などから、動画としてどういう教育教材がよいのか分析していけるようになればいいと、だんだん進化していったらいいという御意見であります。</p> <p>下から6つ目ではありますが、通常の講義は授業動画を通して行い、学</p> |

校ではディスカッションや演習に時間を使うなど、対面で行わねばならないことは何かを突き詰めて行くことが必要といった学校教育の在り方に関する御意見もありました。

次に、「誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備」に關しましては、まず才能を發揮して将来はその道に進みたいと考えている生徒と、楽しみながらやりたい生徒と両方いるので、それを満足させる環境作りが大切であると。

次のページに参りまして、1つ目の、マルチスポーツを楽しむルールを開発していくことがスポーツに親しむ環境整備の一つになるという御意見がありました。

また、先ほどの図書館とも関連しますが、2つ目のデジタルミュージアムは、遠くにいながら美術館や博物館のコンテンツを味わえるので整備を進めてほしいという御提案がありました。

さらに、4つ目になりますが、本物に触れる機会、出会う機会、体験する機会を子供たちにいかに多く与えることができるかに尽きると。カリキュラムの中に本物に触れる機会を組み込んで、体験的に出会ってもらう仕組みが必要であるという御意見がありました。

それから、下から5つ目になりますが、スポーツを通じて人間としての在り方を学ぶので、そういうリアルの世界に住んでほしいと。汗を流そうということですね。

最後になりますが、感受性の強い小学校のときに教員がどう評価するのが大事で、教員をしっかり教育してほしいという御意見や、子供のよいところを見つけて認めることを静岡方式のやり方で広めてほしいと、子供の評価に関する重要な御指摘もありました。

会議全体を通じまして、教育委員会の皆様に実践委員会の意見を受け止めていただきまして、同じ方向性を共有することができたと感じております。

知事からは、会議の総括として、ICT教育に関し、授業動画の評価について意見があったので、是非実践していただきたいなどの御発言がありました。

私からの報告は、以上でございます。

それでは、ただいまの総合教育会議の結果、あるいは前回の実践委員会を振り返っていただきまして、特に御意見や御質問がありましたら御発言をお願いします。

挙手していただいて、そして御自分のお名前を述べていただいて、そして司会の私の方に呼びかけていただきたいと思っております。

それでは、お願いします。

(挙手する者なし)

実践委員会が出された意見と総合教育会議で出された意見、本当に重なっております。表現の仕方は違いますが、その重要性とかやり方について、やはり共通の認識を得たと思っております。特に皆様の

| | |
|------|--|
| | <p>御発言がないので、次の議題に進めたいと思いますが、また後でお気づきの点があったら、どうぞいつでも結構ですから御発言ください。</p> <p>それでは、次は静岡聖光学院中学校・高等学校の視察調査結果についてでございます。7月12日でございますが、小委員会と合同で、星野委員が校長を務めておられます静岡聖光学院に伺いましたので、概要について事務局から報告をお願いします。</p> |
| 事務局： | <p>それでは、事務局から御報告いたします。</p> <p>資料は4ページになります。資料2を御覧ください。</p> <p>7月12日に、実践委員会と小委員会の合同で、静岡聖光学院中学校・高等学校を訪問いたしました。</p> <p>静岡聖光学院は、御紹介がありましたように星野委員が校長を務めておられまして、ICTを活用した教育やグローバル教育等に先進的に取り組まれております。</p> <p>当日は、実践委員会からは矢野委員長のほかに5名の委員、それから小委員会からは池上委員長を含めて全ての委員が参加されました。それから、実践委員会でも取組の御報告をいただきました掛川西高校の吉川先生にも御参加をいただきました。</p> <p>調査結果の概要を簡単に御報告いたしますけれども、まず学びについての考え方といたしまして、主体的に自分の人生を切り拓いていける生き方を創造する力を育むために、理解すること、思考することを最重視した学習、あるいは学ぶことの意味や意義を考える学習を進めているとのことでございます。英語教育につきましても、英語運用能力を高めるために、英語を学ぶのではなく、英語から学ぶとの考え方で進めているとのことでございます。</p> <p>4ページの右側の上の写真でございますけれども、特別なクラスの授業の様子ですけれども、この部屋の中で使えるのは英語だけということで、全て生徒も英語で会話をしておりました。</p> <p>ウの新型コロナウイルス感染症への対応ですけれども、静岡聖光学院では既に生徒1人1台のタブレット端末が導入されていたということもありまして、いち早くオンライン学習に切り替えることといたしまして、教員の研修などを短期間で行って、体制を整えたということでございます。</p> <p>次の5ページをお開きください。</p> <p>前半、学校の取組の説明ですとか、校内を視察した後に、参加者で意見交換を行いました。静岡聖光学院では、ICTを活用した教育にいち早く取り組んでおられますけれども、こうした取組を公立学校で広げていくためには、一人一人の教員の意識を変えていく必要があるといった御意見がありました。</p> <p>それから、静岡聖光学院では、自分たちの取組を外部へも積極的に発信しておられるということもございますけれども、公私の垣根を越え</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>て、吉川先生のような思いを持った教員同士がつながることで、静岡県 の教育を変えていく相乗効果が生まれるのではないかとといったような御 意見もございました。</p> <p>簡単ではございますけれども事務局からの説明は以上でございます。</p> |
| 矢野委員長： | <p>どうもありがとうございました。それでは、当日、見学した私どもを 大変快く迎えてくださりまして、またつぶさに見学をさせていただき、 そういう機会を与えてくださりました星野委員から補足的にいろいろ御 感想を伺えればありがたいと思います。</p> |
| 星野委員： | <p>皆様、こんにちは。聖光学院の星野です。</p> <p>この視察の当日に御参加くださいました委員の皆様、関係各位の皆 様、本当にありがとうございました。</p> <p>なかなか私たちも思いが先走って失礼な物言い等もあったかと思いま すが、私たちにとっても学びを振り返るいい機会になりました。</p> <p>いろいろとあるんですけれども、実際ものすごくICTに詳しい教員 がいたというわけでは決してありませんでした。そんな中で、今も手探 りでやっています、学校も今オンライン授業です。登校をさせない状 況でやっています。午前中の3時間は通常のオンラインの授業をやっ て、午後は個別のアダプティブ・ラーニングということで、面談をし たり、atama+（アタマプラス）というICTのツールを使ったりとかで、 個別の学習が遅れている子はそこで補習をやったりとか、進んでいる子 はどんどん進むとかそういうチャレンジをしている段階でございます。</p> <p>皆様の英知を是非結集させていただいて、静岡が教育の本当に世界に 誇る教育県であるという、本当に夢見ています。</p> <p>私たちだけが進化するとか、あと公立と私学が共生するではなくて、 これからは本当に共進化、みんなで本当に進んでいくというところを是 非お願いしたいというところがございます。デバイスもそうですけれど も、最初、無料配付して、使う人が多ければ多いほどどんどん進化スピ ードが加速度的になりますので、是非その共進化ですね、というところ で、皆様のお知恵を是非お借りして、私たちもどんどん進んでまいり たいと思います。今後ともよろしく申し上げます。</p> <p>視察の際は本当にお世話になりました。ありがとうございました。</p> |
| 矢野委員長： | <p>どうもありがとうございました。</p> <p>それでは、当日見学会に参加された委員の方々から御感想を伺いた いと思いますが、まず最初に池上さん、いかがでしょうか。</p> |
| 池上副委員長： | <p>池上でございます。おはようございます。</p> <p>事務局から丁寧な報告がありましたので、視察そのものについてはご く簡単に触れてその後の展開について皆さんと共有したいと思いま す。</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>現場で陣頭指揮を執っていらっしゃる中堅の先生方の非常に熱いプレゼンテーションを見まして、私も教育に対する心意気がむらむらと燃え上がったというのが率直なところでした。</p> <p>生徒さんたちがとても生き生きと学んでいる様子が印象的で、何かやらされている感というよりも、自分たちの可能性をこれからどんどん広げていくんだという、そんな気概のようなものを感じました。</p> <p>その後のことですがけれども、実は今回、私がつままたま聖光学院さんの見学に先駆けて掛川西高の吉川先生とお会いする機会がありまして、聖光学院さんを見に行くんだけど、どうですかと言ったら、日程が合うということで、掛川西高校の校長先生の御理解もいただいて、御参加いただきました。</p> <p>そして、その後、じゃあ今度は逆に掛川西高さんに聖光学院の皆さんと小委員会で見に行こうということで、日程の調整まで進みました。実は今週16日に行く予定だったんですが、今回のこの緊急事態宣言ということで、それはちょっと見送りとなっております。</p> <p>けれども、そう遠くないうちに、是非掛川西高校さんでの見学をして、それぞれ行った、来たというだけではなくて、先ほど星野校長先生がおっしゃっていたように、これをきっかけに静岡県のICTを活用した教育の先駆者たちがうまくつながって、静岡県の教育にドライブをかけていくような枠組みづくりに小委員会としても関わっていきたいし、その企画を実践委員会、そして総合教育会議へと上げていければいいなと思っております。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | ありがとうございます。当日御参加いただいたほかの委員の方からまた感想をお聞かせ願えますか。佐々木さんよろしくお願ひします。 |
| 佐々木委員： | <p>中部電力の佐々木でございます。</p> <p>星野先生、どうも視察の際にはお世話になりました。ありがとうございます。先ほどお話にあったように、若い先生も多くて、エネルギーあふれる学校だなというのが本当に第一感でありますし、授業を見ている、教員と生徒の距離がものすごく近いという感じがしました。</p> <p>授業の内容についても、生徒同士が非常に刺激し合っていて、その場を楽しんでいるなという感じでした。我々企業人として、企業も、職場もこうあるべきという理想像に近かったのも、会社に帰って、こうだったぞという話はしておりますが、管理職も古いので、なかなか活性化しないんだろうなというふうに思っています。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございます。</p> <p>白井さん、いかがですか。感想を御紹介ください。</p> |
| 白井委員： | 見学させていただいてありがとうございました。 |

| | |
|--------|---|
| | <p>本当に刺激を受けまして、あの後、中学、高校、大学、いろいろところで、先駆的な取組について吹聴して回っています。</p> <p>We can do itで、私たちもできるという、すごく励ましをいただいて、その先駆的な取組をしているところをただ羨ましく眺めているだけではなくて、いろいろな先生方に会わせていただいたのがすごくよくて、やっぱり外でお話を聞くのと、中に私たちが入れてもらって様々な先生にお話を伺うということの違いをよく感じた会でした。</p> <p>若手の先生方ともたくさんお話をさせていただいて、一人一人の先生がどんなふうに学校づくりに取り組んでいるのかということをよくお話を聞かせていただいて、みんなで一人一人頑張ればできるというふうに強く思いまして、是非これが飛び火して、どんなところでも、中学、高校、大学、あるいは会社でも、どこでも、こんな取組ができていったらいいなと思って、本当に心に残っています。ありがとうございました。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>森谷さん、いかがですか。</p> |
| 森谷委員： | <p>森谷です。</p> <p>その節は大変お世話になりました。</p> <p>皆さんおっしゃっているように、若い先生方の熱のあるプレゼンにとにかく圧倒されまして、感想は本当に皆さんと一緒になんですが、絵描きの立場から一ついいなと思ったのが、アートの重要性というものを、あと創造性というものをすごく大事にしてくださっていて、本当に未来的な学びをしっかりと使っていらっしゃると思いました。</p> <p>また、校舎もあちこち見学させていただいて、本当に美しくて、コンパクトなんですけど、とても美しくて、日本の学校がどうしても病院みたいな箱のような学校で、そういうところで学ぶのはどうかという、そういう声もあるもんですから、これからはやっぱり誇りに思えるような、それから自分のちょっと隠れ家にもなるような、居場所になるような、すてきな校舎というのはやっぱり必要になっていくかなと思いました。ありがとうございます。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>どんどん指名しますので、皆さんお許しいただきたいんですが、松村さん、どうぞ。手を挙げられています。</p> |
| 松村委員： | <p>株式会社いちまるの松村です。お世話になります。本当に刺激的な事例を見させていただきました。ありがとうございます。</p> <p>星野校長先生の熱意とエネルギーが、副校長さんから、それから校長先生が連れてこられたスタッフの方々がまたすばらしくて、そういう方々のお話を聞いて、DVDも送っていただきましたね。</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>そのときにお話があったように、私立の学校だからできるということじゃなくて、公立の学校でも同じようにできるはずなんですよね。それを星野先生は指導していただくとおもうんですが、やっぱり組織を変えていくのはリーダーですから、各公立高校の校長先生とか、どれだけのエネルギーをもって学校を変えていくかという、そこがやっぱり気になります。その仕掛けを是非県全体で考えなきゃいけないんじゃないかなと思いました。以上です。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。 山浦さん、いかがでしょうか。</p> |
| <p>山浦委員：</p> | <p>おはようございます。その節は、星野校長ありがとうございました。 非常に刺激的な場でして、先生方の熱量がとても印象的といいますか、とても伝わってきました。バックキャストという、未来を見据えて、だからこれをやっていかなくちゃいけないという危機感みたいなものもとても伝わってきましたので、私自身も子供たちの課題とか、地域の課題というのを考えながら活動していましたけれども、あれほどの熱量でやっていたかというふうに、すごく自らを振り返るいい機会にもなりました。 遠慮しないとか、諦めないということをおそこで何か教えていただいたような気がしまして、小さくてもできることを思いまして、生徒たちへのキャリア教育の授業の時に、私は自分があの手この手で伝えるということをやらせていただきまして、精いっぱい伝えることができ、子供たちがそれに反応するようになってきました。 あとは、公立の先生方にも、こういった学びの会があるよというのを、遠慮しないということを決めて、いろんな方にいろんな学びの情報をお渡しするようにしましたら、結構それに反応してくださる先生方が増えてきました。 あの場をいただいたことに本当に感謝しています。また、是非よろしく願います。ありがとうございました。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。 私も本当に感銘を受けました。一番思ったことは、校長先生に伺いましたら、去年の3月ぐらいから本格的に取り組み始めたという話を聞いて、これだけの短期間で、これだけのことができる、やればできるということを深く感じました。 もう一つ思ったことは、皆さん今御指摘のとおりですけど、先生方の情熱ですね。きっとその情熱が子供たちにいい感化を与えているに違いないというふうに確信しました。 やはり現場で皆さん取り組んでおられることを見学するというのは、私たちにとっても大変いい勉強になりました。これからは是非そういう意味で、いろんな学校の現場を見学する機会を作っていきたいと思いま</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>すので、是非皆様にもなるべく多く御参加くださればありがたいと思います。</p> <p>それでは、聖光学院の見学会についての報告並びに感想についての時間は終わりました、次に本日のテーマの論議に入りたいと思います。「誰一人取り残さない学びの保障」についての意見交換に移りたいと思います。</p> <p>初めに、事務局から資料の説明をお願いします。</p> |
| <p>事務局：</p> | <p>資料は6ページになります。資料3を御覧ください。</p> <p>本日の協議事項は、「誰一人取り残さない学びの保障」としております。社会の在り方が急激に変化する中で、予測できない変化を前向きに受け止め、地球規模の諸課題も自らの課題として考え、他者と協働しながら、持続可能な未来を切り拓いていくことのできる創り手の育成が必要となっております。</p> <p>それから、家庭の経済状況ですとか地域差、本人の特性に関わらず、全ての子供が才能や個性を発揮できるようにしていくことが重要となります。</p> <p>論点は2つ掲げてございます。</p> <p>1つ目の論点は、「誰もが等しく教育を受けられる機会の確保」としておりますけれども、子供たちの社会経済的、家庭的な背景、あるいは多様なニーズに対応して、具体的にどのような取組が考えられるか御意見をいただきたいと思います。</p> <p>2つ目の論点は、「才能や個性を社会で発揮できるようにするための個々に応じた教育」としておりまして、これからの時代に求められる資質・能力を育むために、具体的にどのような取組が考えられるか御意見をいただきたいと思います。</p> <p>いずれの論点につきましても、それぞれに記載しております検討の視点も踏まえて御意見をいただければと思います。</p> <p>次の7ページの資料4は、これらの論点に係る県の取組等について、ポイントをまとめたものとなっております。</p> <p>個々の取組の説明は割愛いたしますけれども、別冊の参考資料の関連ページも記載しておりますので、適宜御参照いただければと思います。</p> <p>簡単ですが、事務局からの説明は以上でございます。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ただいまの説明に関して、質問などがございましたら、意見交換の中でお願いします。論点は2つございますが、関連性もありますので、一括して意見交換を行います。</p> <p>先ほどのように、挙手をしていただいて、お名前をおっしゃってください、そして御発言をお願いします。</p> <p>では、どうぞ。</p> |

| | |
|------------|--|
| | どうぞ、マリさん、お伺いいたします。 |
| クリスティーヌ委員： | <p>すみません。先ほどの聖光学院へも行きかけたのですが、本当に興味深く、全部英語で授業をやっていたらいいなと思いましたが。</p> <p>いくつかあるのですが、この「誰一人取り残さない」ということの中で、SDGsでは言われている非常に重要な視点だと思います。</p> <p>ICTの話も出てきたのですが、ICTの一番重要なところというのは、私たちがただインターネット上で物を見たり、テクノロジーというものを活用して活動するときには、向こう側に相手がいるということに対しての見え方が鈍くなっていくような感じがするんです。</p> <p>ですので、学校教育の中では、道徳教育というか、モラルとか倫理観とか、英語でいうethicsという、そういう問題も含めて、きちんと章立てした形での授業というものが重要だと思います。それこそ相手をいじめたり、誹謗中傷も今すごく大きな問題にもなっています。どこまでが失礼になるのか、人を傷つけることになるのか、又は違法になるのかということを、理解することはとても重要だと思います。報道でもそうですが、何かを暴いたときに、その相手に対する悪口ではなく、事実を基にしてどう組み立てて伝えるか、それと何が英語でいうhearsayなのかということを区別するかということ、小さい時からこのような教育を受けているかいないかはとても大切なことだと思います。</p> <p>人の悪口を言うてはいけない、陰口を言うては駄目なのよ、ということ、小さいとき英語でよく言われて育ちましたが、それがとても役に立っています。学校教育の中でも同じように、これだけたくさん授業をお子さんたちに、教えなきゃいけないときに、先生は何か暗黙の了解でみんな分かっているんじゃないかという、そういう視点で教えたりするわけです。本当に驚きますのは、大学生たちを教えているときに、こんな初歩的なことまでも教わってこなかったんだということ。講義の後に、こんなこと知りませんでした、例えば自分にとって自分のセクシュアル・ライツがあるとか、自分自身の体に対する自分の権利があるんだとか、そういうことも知らずに大人になってしまったりとかという。</p> <p>ですので、その教育をこの中でどう教えていながら、ICTというもののうちの、私たちはインターネットとかコミュニケーション・テクノロジーの中ででもどうやって、本当にそこには人がいるんだという認識をどのように伝えていくかということがすごく重要だと思いますので、その伝える方法をここにも少し組み込んでいただけないかなと思います。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>大変重要な御指摘ではないかと思えます。いろんな角度から同じよう</p> |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>な御指摘がこれまでもなされてきましたけど、リモートだけでなしに 面の教育、道徳とか情緒を教えるにはどうしたらいいとか、基礎的な 知識だけでなしに、その思いまでもどうやって伝えていくかというこ ではないでしょうか。</p> <p>ほかの委員の皆様にもただいまの視点について御発言いただきたいで すし、また別の視点からでもいろいろおっしゃっていただけるとありが たいと思います。どうぞよろしくお願いします。</p> <p>はい、どうぞ、片野さん。</p> |
| <p>片 野 委 員：</p> | <p>片野牧場の片野です。よろしく申し上げます。</p> <p>論点1の話の中で、参考資料を頂きまして、参考資料の83ページを見 ていただきたいのですけれども、コロナ禍で親の所得がそのまま子供の 学習能力に反映してしまっているという事実がこの資料によって明らか になっているという中で、これを是正するためにはどうしたらいいのか ということを考えていくと、親の所得というのは急には変えられない、 すなわち子供の環境というのは、子供自身は変えていきにくいというこ とを前提として、子供自身が、ではどうやれば幸福の追求、自分の能力 を高めていけるのかということ子供自身が気付いて、その課題に対し て対処していく力というのが必要になっていくのだろうと思います。</p> <p>そういう中で、次の84ページに、ラーニング・コンパス、自分はこの ラーニング・コンパスの内容を読んで、IT教育、バカロレア教育のこ とを少し思い出しまして、静的・直線的・固定的・受動的な教育、要は 大人や先生方が子供に対して課題を与え、子供はその課題を解いて成長 していくという従来のやり方では、子供自身が自ら課題を求めていくよ うな、そういう機会を失ってしまうのではなかろうかと。</p> <p>これは前から言われて、僕自身行っていなかったことをとても今後 悔しているのですけれども、聖光学院さんもそれに対して本当に子供た ちの自主自立を促すような教育をなさっているのであろうと私は感じま した。そういう教育をするということで、子供たちが自分たち自身で学 びを得ていく。例えるならば、今の状態だと、あぐらをかいていて、そ こに大人たちが課題を持っていくような状態。それが、自分で立って、 自分で歩いてみれば、壁にぶつかるわけですね。そういう壁をどんどん 見付けていけるような施策という、そういうふうな取組、生徒自身が課 題を見付けていくような。</p> <p>そういうことをしていくためにも、IB教育というのも含め、それと あとラーニング・コンパスというのをよく私たちが理解をして、それを どうやって教育現場に取り組んでいくことができるだろうかと。そうし ていければ、子供たちは自分の環境でどうやって生きていけばいいのか ということを考え始め、それを解決しようと図書館に通って勉強をした り、また将来のことをしっかりと考えられるようになっていくようにな ると思います。</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>そうした中で、この所得の格差というのは、また前に戻りますけれども、環境は変えられない。環境が変えられないならば、自分を変える力を付けていくような教育をしていかなければならないと思います。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>大変重要な点の御指摘だと思います。ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。</p> <p>はい、どうぞ。森谷さんですね。どうぞお願いいたします。</p> |
| <p>森谷委員：</p> | <p>絵描きの森谷です。よろしくお願いいたします。</p> <p>論点1と論点2とそれぞれ一言お話ししたいことがあるんですけども、まず論点2の才能や個性を發揮できるというところなんですけれども、1年前のこの会議、一番最初に私が出席させていただいた会議でもお話しさせていただいたことなんですけれども、私は特に進学校の不登校というのがとても気になっておりまして、前もお話ししましたがけれども、課題をがんがんと与えて管理型になってから、どんどん不登校というのが増えております。</p> <p>それで、なかなか今この会議で話しているようなことというのは、進学校には浸透していくのが時間がかかるだろうなというような、やはり結果重視というのが保護者や社会の求めるところであります。</p> <p>ただ、仮に不登校の生徒数が全体で3パーセントとして、仮に1学年300人としますと1学年で約10人です。そして10年たてば、10年間でその地域に不登校になって社会に適応できなくなったり自己肯定感を損失してしまった子を100人輩出してしまうことになり、それはどうしたものかと思うんです。</p> <p>また、小さいときから頑張り続けてきて、地域のリーダーとして自信を持って進学校に進んで、そこで自分の能力に疑問を感じたり、自己肯定感を失ってしまうというのはどうかと思います。とにかく進学校の在り方、見直してほしいと思っております。首都圏では10年くらい前から管理型、詰込み型への見直しが始まっていると聞いております。教科間の調整なしに課題を出すことで、結果、やり切れないほどの大量の課題を生徒に負わせるようなやり方について、検討してほしいと思っております。</p> <p>1つ御提案したいのは、教育先進国と言われている北欧では、ほとんど場合、脳科学分野の先生方のアドバイスとともに教育プログラムを考えているというのが現実にあります。そうしますと、例えばフィンランド教育を啓蒙しているフィンランドセンターのお話によれば、脳を休めるということを大変重要視しているようです。それから脳を活性化するための働きかけですとか、プログラムとか、課題の出し方とかいうのを常に医学的のほうからもアプローチして学校での教育に反映させておりますので、一人でも取り残さないように、全ての子が自分に自信を持</p> |

てるように、そうしたアプローチの研究というものを是非お願いしたいと思っております。

2点目、論点1で、誰もが等しく教育を受けられる機会ということで、私が今思っているのは、今、静岡県の教育が大きく変わろうとしている、この会議でもすごく熱を持った発言がたくさん出ている、こうしたものを全県民の方となるべく時差なく、それから温度差なく、共有していく場が欲しいと思っております。往々にして、静岡県が考えていることを県民が共有するというと「県民だより」ぐらいしかないと思いますが、それだとちょっとやっぱりアピールが弱く、この変わりつつある教育の方向性、それを社会全体で共有するための渦の中心となるような場をお願いしたいと思っております。

1つ御提案なんですけど、ちょうど今、静岡県立中央図書館が移転計画が出ております。それで、今までのような図書館機能だけでなく、文化の発信という機能を持たせるといふ計画案があり、場所は東静岡駅南口、令和8年完成で計画が進んでいるということなんですけど、是非この文化の発信拠点のところに、この実践委員会で行われているような内容等を盛り込ませ、そして学校と地域と、それから海外、世界が直接つながるような、静岡にいながらにして一人一人が世界につながるような、そういう機能があるといいなと思っております。

実は、この計画案に関してはいろんな方からアドバイスというか御意見を伺っております、ちょっと紹介させていただきたいと思っております。

例えば県ボランティア協会の方からは、県内にせつかく大学があるわけですから、もっと国際交流を盛んにしたり、静岡県にいながらにしてディベートできるような場を設けたり、あるいはJICAや青年海外協力隊を県の若い子たちとつなげるような機能を持たせたらどうか。

あるいは、静岡ユネスコ協会の方からは、静岡がSDGsモデル県に向かって動き始めているのですから、もう少しそういうものを県民全体と共有したり、あるいはユネスコ関連の取組も大変多いですから、ユネスコエコパークなども含めて、もっと啓蒙できる場にしていく。

あるいは、国際交流がこれから発展していくとなると、日本の文化を伝えなければいけませんので、これが今、教育の中で十分ではありませんので、日本の持続可能な文化を大学、コンソーシアム等々、研究して発信できる場を作ったらどうか。

あと最後に、県青少年会館の方からも、こちらは具体的にもうサポートさせてほしいということで、世界のネットワークをお持ちですので、今までのキャリア等を生かしながら、具体的にいろいろな社会教育のサポートをさせてほしいという意見もありまして、こういうふうに社会全体が上がっていきますと、社会全体が外から学校を支えてくれる基盤ができますので、大きく渦を回していくことができると思います。是非、そういう施設というか、場があるといいなと思っております。

以上です。

| | |
|--------|---|
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>教育改革は社会総がかりでやろうとしておりますので、御指摘のような点をもっと充実していく必要があると思うんですね。いろいろな広報手段は講じていますが、今の意見を参考にして、県も、教育委員会としても、発信の場を広げてほしいと思います。ありがとうございました。</p> <p>加藤さん、どうぞ。</p> |
| 加藤委員： | <p>加藤です。おはようございます。どうぞよろしく申し上げます。</p> <p>先ほど片野さんがおっしゃったことに、とても私もちょっと感銘を受けたんですけども、そこでのいわゆる所得の格差ということなんですけれども、ますます今このコロナの状況になって、親が失業したりとか、苦しい状況に今すごくなっていると思うんですね。ですから、この部分をやっぱり本当に充実をして、教育に力を入れていかないといけないんじゃないかと私は思います。</p> <p>その観点から言って、36ページのところに、放課後子供教室というのが年々増えているという数字があるんですが、こういうものに私はもうちょっとお金を付けて、予算を付けて、とりわけいわゆる昔でいう寺子屋、こういうものを市町村にもっと充実させて、これからシニア世代、定年になった方々もどんどん増えていきますし、そういう方々だったり、私はリーダー塾をやっている立場から言うと、今静岡県の高校生たちも何か社会とか地域のために貢献したい、ボランティア活動をしたいという子たちも多いんですね。</p> <p>ですから、そういうやる気のある、生徒会なんかをやっているような高校生なんかも巻き込んで、市町村の中でどこか場所を借りて、そこで放課後に教室を開いていくというようなきめ細かいことをやったらいいかなど。</p> <p>公的な場所を借りるというのが一番安上がりだと思いますけれども、昨今、私はもともと新聞記者をしていたので、新聞の販売所というのがありますけれども、販売店なんかをそういう場に行っているような、例えば福岡なんかは西日本新聞がそういうことをやっているんですけども、そういう場所なんかも民間でもあると思いますし、そういうところを活用して、そういう放課後の取組をやるためには、子供たちがそこに来ないといけないわけですよ。往々にして、やっぱり行くというハードルが高いんだと思うんです。勉強が嫌いとか、勉強したくないと思っている子たちもやっぱり、これは私の偏見かもしれませんが、やはり所得が低い親の元だと、なかなか勉強を教えるというところまで、それよりも生活をしていくほうが大変で、子供にそういうところに目が掛けられていないところもあるので、私はとりわけ小学校の低学年の子供たちがすごく大事で、やっぱりそこで勉強することが楽しいということが分からないと、それが中学や高校になったらどんどんギャップが広がっていったらうんで、小さければ小さいほど、そういう教育を</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>することが大事なので、じゃあその場所にどうやって行かせるかということなんですけれども、そこはやっぱり単なる学校の先生だけじゃなくて、民生委員の人とか、ひとり親の場合には、民生委員の人が出掛けて行って、いろいろと見回りしたりしている例もありますし、そういう横断的に、そういう方々も一緒に工夫しながらやっていくということが大事なんじゃないかなというふうに思いました。以上です。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>今大変大事なことをおっしゃったと思います。勉強する楽しさがどうやって分かるのかというのは、これ実は大問題で、多分、小学校から大学生まで皆同じ課題を抱えているんじゃないでしょうか。本当にその楽しみが分かったら、どこまでも進歩するものなのですね。そのためにはどうしたらいいんでしょうか。</p> <p>加藤さん、いろいろ若者の育成を手掛けておられますけど、どこにヒントがあるんでしょうか。</p> |
| <p>加藤委員：</p> | <p>そうですね。例えばものすごくいい、分かりやすい例でいうと、英語なんてそうなんですけど、英語の教材がつまらないと、前に進んでいかないというか、今はどうか分かりませんが、私が学んだ頃は、最初は「This is a pen」というところから始まったんですが、「This is a pen」って、これはペンに決まっているだろうと自分で思っちゃって、何かわくわく、ドキドキ感がないんですよ。</p> <p>そういった意味においても、私なんかやっぱ英語の教育で苦手だと言っている高校生たちに言っているのは、自分の好きな分野、例えばサッカーが好きな子だったら、サッカーの雑誌だったり、そういうビデオを見たりとか、それから映画の好きな子だったら、その言語の映画をたくさん見なさいとか、演劇が好きな子はやっぱりその言語でやっているようなものを見たりとか、そういうことをするとやっぱり、ファッションが好きな子はファッション雑誌、そうすると、知らない単語が出てきたら、これはどういう意味だろう、日本語にしたらどうなのかなと興味が湧いてくるんですよ。</p> <p>そういうやっぱりわくわく、ドキドキ感って、それは意外とこれって私オンラインになって気が付いたことがあるんですけども、オンラインって、限りなく追っていきこうと思ったら、頑張れば世界中の面白い先生と出会ったりもすることができるんですよ。静岡県でそういう人材バンクみたいなものを作って、それでこういうことがあったらこの先生にちょっと出張をしてもらおうとか、サッカーのことだったら山本先生が出てこられて、それで山本先生がサッカーの解説をやるとか、演劇だったら宮城先生がされるとか、何かそういうことがオンラインだともものすごい広がっていくんですよ。</p> <p>ですから、今、私それがコロナで分かった千載一遇のチャンスだと思</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>いますので、そういうところから子供たちに興味を持ってもらう。映像とかそういうものは、すごく私は大きいと思います。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>今お名前が出ましたので、宮城さんと、それから山本さんですね、御発言をお願いします。今の加藤さんの発言に限定する必要はありませんので、いろいろな視野からでも結構です。お願いします。</p> |
| 宮城委員： | <p>宮城です。</p> <p>まず、僕、聖光学院の視察に行けず、すごく残念でした。僕ちょうどこの頃自宅待機中というやつで、日本に帰ってきて外に出ちゃいけない時期で、伺っていて、そうか、リーダーお一人の熱意がこんなにメンバーに伝わるのかと思って、僕、自分の組織の中で、これほど組織のメンバーに熱を伝えられているかなと、少し自らのことを反省してしまいましたけれども。</p> <p>今日の「誰一人取り残さない」について、具体的にいくつか、2つぐらいですね。今、僕たちSPAC演劇アカデミーで、16人の高校生にかなりマンツーマンに近い形で接しているんですけども、案外、IT環境が違うんですよ。案外というのは変な言い方ですけど、つまりSPAC演劇アカデミーに応募してきて選考を通ったような子は、相当意識があるわけなんだけれども、それでも例えばインターネット環境で何かをやろうと思うと、ちょっと音声しか無理ですとか、案外差があるんですね。ですから、つまりいくらデバイスを配っても、御家庭のネット環境に相当差があって、等しくいかないんですよ。何かそれほど巨額の投資じゃないんじゃないかと思うので、家庭のネット環境というのをもう少し平準化できないものなのかなと。</p> <p>この所得の差が学力の差にということであると、リモート講義とかが増えてくれば、何かうっかりすると一層それが広がるんじゃないかと。さっき申し上げたように、ネット環境の違いがもろに、例えば画面がきれいかどうかとか、そういうところで差が出てきて、実際、粗い画像とかを見ているとやる気になれないとかあるじゃないですか。ですから、何とか家庭の収入と関係なく、ネット環境だけは等しく得られるというふうにはできないものなのかなと1つ思いました。</p> <p>池上先生、視察に来ていただいてありがとうございました。あの日に僕自宅待機中で立ち会えず、ビデオを拝見して、本当に池上先生が子供たちに将来何をしたいのかとか話を聞き出していくテクニックがすごく上手で、それにも感心してしまいました。</p> <p>子供たち、本当にやる気はある。ただ、意外なぐらい情報を持っていないんですね。一人一人、将来こういうことをやりたいというときに、本当にすごい限られた情報の中で何か選択していたりして、いや、そういうことをやりたいんだったらこういうのもあるよ、こういう道もある</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>よ、こういう学校もあるよと僕たちも言うんですけど、本当に僅かな選択の中で何か思い込んでいたりする。これほど情報化社会と言われてるのに、何でこんなに情報が少ないんだろうと思ったりしました。身の回りに相談できる人がいないということなのかもしれません。</p> <p>そうすると、今さっき加藤さんがおっしゃったような、オンラインだったら、専門家中の専門家みたいな人とうまくつながることもできるんじゃないかという可能性は確かに感じました。身近に、例えばアートをやりたいとかいうときに、相談できる人がなかなかいないという、実際問題そういうことなのかもしれませんね。</p> <p>あと、やはり、さっき森谷さんがおっしゃっていたように宿題が膨大に出ている子とかがいて、そんなに出ているのかというぐらい出ている子がいるんですね。この子のせっかくのポテンシャルを伸ばせないんじゃないか、やるべきことをやる時間が取れないんじゃないかというぐらい宿題が出ていたりするんですよね。それは、もう少しその子、その子で選べるようにならないのかなということは思いました。</p> <p>以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。 山本さん、いかがですか。</p> |
| 山本委員： | <p>山本です。おはようございます。お疲れさまです。</p> <p>オリンピック、パラリンピックを見ていて、静岡県の手選手の活躍、本当に多かったと思いますし、日々何か僕も涙する日々で。静岡県って健康で長生きするランキング、トップ中のトップだと思うんですよ。いろんな要素があると思うんですけど、後ろにいらっしゃる皆さんの御活躍とか、気候の問題とか、いろんなことがあって。これは人生にとってすごい幸せなことで、もっと発信した方がいいんじゃないかなというのはいつも思っています。元気で長生きするランキングがいいというのは一番幸せな世界だと思うので。</p> <p>というのが1つで、これはオリンピック・パラリンピックを見ての感想で、本当に自慢の静岡県なんですけど、あと我々は次世代の人たち、未来を担う子供たちにどのような社会を創っていくかというところで言うと、先ほど星野先生のところの視察の話が出ていたんですけど、やっぱり創造的な仕事というのは、テレワークだけでは、便利さはもちろんあるんですけど、成り立たないんだなというのは、行った人の熱のある話を聞いていると、やっぱり本物を見なきゃ駄目だったんだというのは実感するので、こういうことが大事な視点なのかなというふうに思います。人材育成が未来の静岡を創っていくので。</p> <p>今日の論点の1と2なんですけど、この論点の1と2は対極にあるようなお話だと思います。一方で特別に優秀な方向に行ける人がやれる機会をとということと、底辺で絶対に取りこぼさないという対極にあるよう</p> |

な話なので、この2つの論点があるというのは、やっぱり静岡はすばらしいのかなというふうに思いました。

僕は、1つ、いろいろデータのことなんですけど、夏に全国中学校サッカー選手権がありました、ベスト8に行ったチームのうちの7校が私立中学です。要するに、優秀な子を全国レベルで集めてこられて、みんなが切磋琢磨して、いい環境があつて、いい指導者がいれば、勝つんですよ。それが、いい子が1人いても、地方の部活で、先生もサッカー専門の部活の先生じゃないみたいなことになると、その子の可能性はやっぱり難しいですよ。競争するライバルがないから、いろんなものが築けない、環境というがあるので、それが論点の2の方の、皆さんのお話のように、格差社会をどうクリアしていくのかということにつながっていると思います。

もう一つあります。国体の少年男子16歳以下です。中学生のときにほぼ流れは決まってしまう。幸いなことに静岡はサッカー、チャンピオンです。今回、国体が2回目の延期になったので、3年間チャンピオンでいられました。逆に言うと連覇を2回逃したかというのも思っているんですけども。

もう一つの大事な提案は、男女共同参画の中で、この論点の1や2の中で、明らかに格差があるということです。この間、中体連のスポーツ審議会の中で中体連の校長先生の代表に聞きましたけど、女子サッカー部はほぼありません。女子のサッカー部、中学ですね。高校はありますよ。藤枝順心も強いし、いろんな学校も強いので、静岡は全国チャンピオンですよ。高校女子サッカー選手権で藤枝順心が昨年全国1位になりました、男子は静岡学園。こんなすばらしいことはないです。これは底辺がしっかりしているからです。

2024年から女子の国体がU16になります。高校1年生です。中学校の女子のサッカー部が一つもない県が優勝するわけがないんです。これは、男子のサッカー部にみんなグラウンドも、先生もいます。しかし、女子のソフトボールはある。男子野球部もあるじゃないですか。サッカーの男女は、オリンピック種目ですよ。女子は銀メダルも取ったことがあるし。その女子の部活をやる場がないというのは、静岡県は男女平等からは程遠い県だよなと思われても仕方がないような環境にあるんじゃないかなと、早く修正した方がいいんじゃないかなというふうに思っています。

そこで提案なんですけれども、やっぱりいいリーダーというのは必要なので、前もお話ししたかと思いますが、部活の5コマみたいなやつを授業の一つとして、部活をやる人と授業を17時間やる人と、授業を12時間と部活の5時間を授業と捉えるか。それで優秀な指導者の層を厚くしていく。優秀な方はいっぱいいますから、その人たちが能力を生かせるという意味でもそこなのかなと思います。

教えることよりも気付かせることが重要なんだと思うんですね。教え

| | |
|----------|--|
| | <p>たら、その先生以上になるわけじゃないじゃないですか。気付かせれば、自分で勉強して、インターネットを見て、いろんなテクニックを学んで、上手になろうと思って、いろんな努力をする。その気付かせる先生のアプローチ、いいヒントとか、いい質問ができるとか、寄り添えるとか、こういう子供たちへの関わりを教員の方がもっともっと勉強する場が研修としてあれば、さらに静岡モデル、ぐんといくんじゃないかなと思います。指導者の養成はできます。でも、育成はできません。養成というのは、資格を取らせることだけなので。育成というのは、その人が一生懸命学んで、さらに成長しようと思う人しか無理ですね。こんな環境をどう作っていくかということです。</p> <p>最後に1つ、例えばヤマハさんとか、スズキさんとか、中部電力さんとか、JR東海さんとか、分かりませんが、静岡に携わる大企業の社会貢献みたいなことで協力をいただき、その資金を育成年代、18歳以下がいいのか、15歳以下がいいのか、そういうところにしか投資できないような形で、皆さんの税金だけではなく、自立して人材育成に使えるようなお金を集めていくというような方法も取れるんじゃないかなと考えます。ヒントとして、実際にこれは日本サッカー協会でも育成強化にお金を集めている仕組みがあるので、静岡でもやればできるんじゃないかなと思います。子どもたちの成長こそが静岡の未来を創るのです。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。 藤田さん、いかがですか。 その後、佐々木さん、お願いします。</p> |
| 藤田（尚）委員： | <p>ありがとうございます。 今、皆さんのお話を伺っていて、やっぱり、皆さん御存じのとおり、飲食店、今、多分一番打撃が多くて、ジェットコースターのようなこの1年半ぐらいを送ってございまして、売上げが本当によかったところから一気に売上げがゼロになって、私も子供を抱える父親としても、どういうふうに、会社もそうだけれども、子供を育てていてということはずっと悩んできた1年半でございました。</p> <p>最初は1年ぐらいでという話から、だんだんワクチンを打てば早まるとか、遅まるとか、何か話がいろいろ立って、結局いつ収まるんだらうと思って、会社のほうもいろんな予想を立てて、いろんな計画を立てるんですけども、翌日の新聞によって全てがひっくり返るような形で、立てても立てても全て湯水のように消えていってしまう戦略の中で、多分、飲食とか、観光とか、ホテル関係とか、サービス業という人たちというのは本当に大きな今大打撃を受けている中で、教育も多分一緒だと思わなければならないんですけども、今なかなか予想を立てても変わっていかぬことがたくさんあると思うので、今後やっぱり3つぐらいのパターン</p> |

で、戻った場合のパターンと、戻らなかったときのパターンと、そのハイブリッドということで、それというのはもちろんだというふうに授業を教えるかということと、あと子供のメンタルのところもですね。多分、今見えていないけれども、子供たちの心の中で大きな多分変化が、まだ顕在化はしていないけれども、多分大きなことが今起こりつつあるんじゃないかなというふうに思っております。

というのも、私も子供たちが今、私学に通っているものですからオンラインになっていて、学校に行かなくて、友達同士の煩わしいことがなくなっってよかったと言っている部分もあったり、一方で、友達に会いたいと言っている部分もあったり、あれ、子供ってこのオンラインというのをどういうふうに考えているのかなというふうに思っております、ただ学校に行って授業を受けてということよりも、やっぱり学校に行く中で、友人とのことであつたりとか、先生とのことであつたりとか、いろんなことが見えているけど、それって家庭内では話されているけど、多分、先生のところまでは届いていない、そういういろんな問題というのがいっぱいあるんじゃないかなというふうに思っております。

なので、ここの一、二年の子供たちの動きというのは、多分二、三年後何か違う形で表れてくるんじゃないかなというふうに私は思っておりますので、本当にこの一、二年は子供たちに目を向けて、何をどういうふうに対応していったらいいか。それで、もっと子供たちの考えていることというのを引き出して、それに対して課題を解決していくことをもう一度現場目線で何かしらのアクションを起こした方がいいのかなというふうに思っております。

自分も経済の中でも生きていながらも、おやじとしての生き方もという中で、とてもハンドリングを迷うというか、正直分からなくて、対症療法しかなく、来た球をとにかく打つしかないという状況の中で、教育も一緒のような感じになってきて、計画を立てても思いどおりにいかないことが大きくこれからなってくるんじゃないかというふうに思っております。

なかなかきれいごとだけではない、いろんな部分があるのかなというふうに思っております、この委員会の中でもそんなところをもう少しもみながら、見えていないところももう少し目を向けてという、前の論点とはまた違う論点が必要になってくるのかなというふうに思っております、意見をさせていただきました。ありがとうございます。

矢野委員長：

ありがとうございました。
佐々木さん、どうぞ。

佐々木委員：

佐々木です。
先ほどの山本委員の御発言を受けてということになるんですけども、やっぱり経済格差の話も具体的に7人に1人が困っているんですと

| | |
|--------|--|
| | <p>いう数字を見たりすると、はっと気づかされることがいっぱいあります。</p> <p>こういう情報は、県民の皆さんも、我々企業人もそうなんですけれども、漠然とは知っているけれども、具体的には知らないんですね。やっぱりこういったことを具体的に知らされると、当事者意識も出てきます。そういう人たち、あるいは企業をきちっと掘りおこして行って、人・物・金を捻出してくるという作業が非常に重要なことだと思います。そういったことがきちっとできれば、眠っている資産も呼び起こせますし、新しい資産も作り上げることができると思います。</p> <p>私、この資料を見ていて、いろんなセーフティーネットを、当事者意識のあるボランティアの皆さんとかNPOの皆さんが作り上げている、そういうことすらも多分多くの人たちは自分の仕事じゃないと思っている可能性があります。そういう人たちがうまく回してくれていると思っているからだと思います。</p> <p>ですから、そうじゃないんだと、回っていないんだという実態をもう少しきちっと我々も認識しなければいけませんし、一人一人が当事者意識を持つ、社会の課題について、そういう認識を持つということが非常に大事だと思いました。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>渡邊さん、いかがですか。</p> |
| 渡邊委員： | <p>非常に重要なお話がたくさんあって何か胸いっぱいでございますけれども、ちょっと私の日常の中から気が付いたことをお話しさせていただきたいと思います。</p> <p>かつてドイツの美術館に行きましたときに、その学芸員が、日本人は美術館に来たときに物を触る、日本人だけだと、あんなに触るのはと、誠にあれは困ったものだと言われました。日本は大体触っちゃいけないものはケースに入っているんですね。仏像のようにケースに入っていない場合は、脇にずうっと柵を作って、手を伸ばしても触れないような展示方法をしているんです。そして触っては困る場合には、全部「触っちゃいけない」と表示を出しているんですけども。ドイツには「触っちゃいけない、ノータッチ」ということは書いていないのです。</p> <p>なぜならヨーロッパ人は、展示しているものというのは神聖なものだから手を触れちゃいけない、と子供のときに教育されているらしいんです。だから絶対に触らない。そこは家具の美術館だったんですけど、家具もケースに入れなくていっぱい展示してある。ヨーロッパのクルミ材の家具とか、きれいな柵のような木工品が展示してある。それを日本人は「わあ、きれい」と触るらしいんですよ。</p> <p>日本は美術品を実際鑑賞するとき、特別鑑賞だと手に触れても良い</p> |

と言うんです。金属でも手に触っていいのがありますし、それから木などの木製品も手に触ったときの温かさとかね。だから、手の感触で物を見るという習慣が結構あるんですね。お茶の道具も手に触って、お茶わんも持って、そしてその手の感触を楽しむという見方もありますから、手で触る。

ここのところ子供たちが美術館に来て、大変お行儀良くなりました。両親、祖父母などの御家族とよく一緒に来ますが、その場合には、美術品に触ったり、おしゃべりをあまりしないで、非常にお行儀良く鑑賞をします。

最近、私が腹の底から怒って叱ったことがあるんです。大学を卒業した学芸員が、相手の会社の社長さんや美術館の館長さんに出す手紙に何と無礼な言葉を使うんだとって激怒しました。礼儀作法というものを大人が分からない、一番それが腹が立つんですね。

昔は、挨拶の仕方と、それから敬語、敬語といっても無礼な言葉は使わないとか、目上の相手にはきちんとした敬語を使う、そういうことを子供のときに厳しく教えられましたけれども、今はそういうのを家庭でも学校でも教えていないんじゃないかと。

徳のある人に対しての自然に表れる尊敬の念、またその気持ちを心から言葉で表現する、挨拶をはじめとした人と人との日常生活において、よく教育を受ければ、トラブルがかなり少なくなるんじゃないかと、最近、世の中で、大人の世界でよく思うんです。

徳の高い人というのは、子供たちが自然と尊敬の念を持つんだと思うんです。だから、大人の責任がそこにある。大人自身が高い徳を持っていれば、子供たちやまだ若い大人、大学卒業あたりの人も自然に頭が下がると思います。そういう徳を学芸員が示さないで、無礼な言葉を使ったり、無礼な手紙を書いたりするというのは、私の方が悪いのかということとは反省もするんですけれども。この教育の徳を高めるということ、どうやって教育し、どうやって広めていくか、それは本当に難しいことだなと思います。

昔は、そういう礼儀作法というのは仏教やキリスト教のような宗教的な関係の中で人は教わって育ったのではないかと思います。最近の家庭の中ではあまり仏壇がないですよ。神棚がない。私など、皆さんもそうだと思うんですが、子供のときには、神様にかしわ手を打って、朝、挨拶し、そして仏壇に頭を下げる。お経は読んだり読まなかったりあると思いますが、とにかく頭を下げるということを教わってきたんですね。

今は、恐らく家庭の中でそれをやっているところが極めて少なくなっているのではないかと。家にそういう仏壇も神棚もなくなってきた。そういうときに、頭を下げて感謝するという気持ちをどうやって教育して育むのがいいのかということは、皆さんもいろいろ考えておられると思うのですが、ものすごく難しいことです。難しいからこそみんなで一

| | |
|--------|--|
| | <p>懸命考えるということが、私はこの教育上、大変に必要なんじゃないかというふうに思います。</p> <p>日本には、昔、敬語がたくさんありましたが、その敬語を正しく使うのは難しいことでした。今では敬語というものは正しく使わなくとも、あまり問題がないという社会的な通念が生まれています。そのため、大人の中でも敬語を使わない会話が行われているのではないかと思うんです。</p> <p>だけど、その中に少し敬語をきちんと使うと、もっと話が豊かになって、話が進むのではないかと。言葉の使い方というのをもう少しみんなで考えたり、勉強したりする機会があったならば、世の中はトラブルが少し減って、少し平和になるんじゃないか。一番困るのは国会の答弁だと思います。議論するのに、激怒したり、人に不快を与えるようなことではなくて、人に敬意を払いながらも議論していく。そういうお手本となるような議論の仕方が教育の中でも少し考えられていく必要があるのではないかなどに思います。いかがでしょうか。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、星野さん、どうぞ。教育の現場でいろいろお感じになっていることも含めてお話してください。</p> |
| 星野委員： | <p>お願いします。</p> <p>なるべく短く話します。3つです。</p> <p>先ほど山本委員からもお話がありました、実は私も4月から県協会の理事長をやっています。教育委員の小野澤委員と一緒に今考えているのが、まだ構想段階なんですけど、結局日本ラグビー協会とか、日体協、日本スポーツ協会の資格者制度というのは、どちらかというところが多いので、静岡独自の資格制度を作ろうかと。そこは、倫理観とか、なぜスポーツをやるか、スポーツをやることでどういう自分が人間になれるとかですね、そういう資格を作ろうと。登録した人間にはマストで受けさせようということも考えています。</p> <p>これが、私が勝手に妄想しているんですが、例えば静岡県内の大学の教職課程、これに関して、私も当然教員免許を取りましたけれども、どうしてもやはり仕組みとか法律の授業が多いんですね。そうではなくて、もう少し実地に基づいた、そしてバックキャスト的な、いわゆるティーチングだけじゃないところをしっかりと教えたりとか、ステークホルダーが何なのか、今世の中どうなっていくのか、静岡県民としてどういう人間を育てたいとか、そんな特別講義ではなく、静岡県独自の教職課程、いわゆる教員免許なのでルールに触れない程度ですけども、というのがあっても面白いのかなという形で、是非そういうのをやったらどうかなと思っています。県大にしても、静大にしても、私大に</p> |

してもですね。これできるんじゃないかと私は本気で思っていますし、もしそういう構想が実現するのであれば、私も是非関わらせていただきたいなというふうに思っています。

もう一つが、先ほどの取り残す、取り残さないでいうと、実はこれ、芸術・スポーツをやっていると取り残されまくるわけですね。私、シュートがうまかったらサッカー続けたかったです。ホームランを打っていたら野球続けたかったです。もっと体が強かったらナンバーエイト、リーチマイケルみたいなポジションをやりたかったんですけど、小さかったんで結局9番、スクラムハーフをやっていたと。どんどん挫折するんですが、そこに救われるポイントがあるんですね。違うポジションだったり、2軍、3軍でも試合ができたり。

これがなぜか教育界はないんですね。勉強できない落ちこぼれ、もうこの世の終わりみたいになるわけです。世の中のヒエラルキーは偏差値で完全に輪切りになっていてということになっているんですが。

なので、今までの日本の教育というのは富士山型、みんなで東大目指そうみたいなですね。私が校長になるちょっと前に、うちの学校は八ヶ岳型でいこうと。500人いたら500通りの、みんなが進みたい道をこの6年間で探して、見つけて、途中でもいいです、それを500通り支援していこうと。私がやらなきゃいけないのは、それをやるとブラック的になりますから、そこをどうマネジメントするかということですね。

ところが、これが静岡聖光学院みたいな今までのブランディングだと、ものすごいOBとか世間からちょっとバッシングされました。星野はもう進学校を諦めたのかということと言われるわけですね。

なので、私はダブル・ゴールですよ。そうやって理想を掲げて本気でやりながらも、ただ大学入試が変わらないと、だから知識はちゃんと教えるところは教えますと。ダブル・ゴールでやりますと。そこを効率化するには、ICTがあつたりとか、自分たちで考える力ということですね、今、非常に過渡期ですね。

私は、やはり八ヶ岳型にして、あと資金の面に関しては、非常にこれも私学だからとよく言われるんですが、実際には自助努力でやっていかなきゃいけないので、今はただ寄附を下さいではなくて、今回、こういう機材を買うのでとか、寮のこういうところにWi-Fiをやるので寄附していただだけませんかというのをお願いします。そうすると、500人のうち、本当にそれぞれに対して30、40家族ぐらいだと思うんですが、少し余裕のある方が寄附をしていただけると。

この辺を例えば静岡県独自で、私たちは教育でこういうふうに使いたいんで、こういうお金を今求めていますということで、企業版ふるさと納税とかで堂々とばんと出す。いろんなことを言う人がいると思うんですけど、教育に対して本気なんだということを示すにもすごくいいのかなと感じました。

最後になります。皆様からも御意見ありましたけど、私この4月に、

| | |
|---------------|---|
| | <p>最初に所信表明プレゼンするんですが、今年から主要5教科という言い方をやめますと宣言しました。英・数・国・理・社ですね。この主要5教科は受験で使うだけなんですよ。</p> <p>ところが、全国一斉休校が終わって、去年の夏前後にですね、生徒が戻ってきたときに何を楽しそうにしていたかということ、音楽、美術、技術・家庭、保健体育だったんですね。あと部活、あとホームルームだったんです。なので、その他の科目じゃないんだと。大学入試でそういうふうには活用されていないだけだからということで、主要5教科を下げるんじゃないかと、その他と言われていたやつを上げますと。主要5教科という言い方をやめますと。全部やりましようということを今伝えていません。オンライン学校などで今こちら側がすごくフラストレーションがたまっているの、戻ってきたとき、どんなふうにも思いっきりいろんな機会をつくろうかなというのを今先生たちで考えている最中です。</p> <p>以上3点になります。私からは以上です。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>いろいろな御意見が出てまいりまして、問題提起されたことの中に、たくさんの答えが含まれていると思います。</p> <p>お話は切りがないんですけども、次のもう一つの今日はテーマがありまして、その中で最終的にまた皆さんの追加した御意見をいただければと思います。</p> <p>それは、教育大綱及び教育振興基本計画の考え方でございまして、まず事務局のほうから説明をお願いします。</p> |
| <p>事務局：</p> | <p>資料は、資料5になります。A3の2枚の資料になります。</p> <p>現在の大綱と計画は、本年度が最終年度となりますので、現在、策定作業を進めているところでありますけれども、まず大まかな概要について1枚目で御説明いたしまして、2枚目で現在の大綱、計画からの変更点などの考え方について御説明したいと思います。</p> <p>初めに、1枚目の資料を御覧ください。</p> <p>上段の大綱及び計画の位置付けにありますように、県の総合計画につきましても、現在後期アクションプランの策定が進められておりますけれども、こちらの方でも「富国有徳の「美しい“ふじのくに”」づくり」を基本理念として掲げることとしております。</p> <p>この大綱、計画は、総合計画の分野別計画に位置付けられまして、それぞれの対象期間は、総合計画に合わせまして、令和4年度から令和7年度までの4年間とすることとしたいと考えております。</p> <p>まず次期大綱におきましては、上段になりますけれども、本県教育の基本理念を「有徳の人」の育成～誰一人取り残さない教育の実現～」といたしまして、その実現に県民が一丸となって取り組むために、「有徳の人」づくり宣言を掲げることとしております。</p> |

その上で、下段になりますけれども、教育振興基本計画におきましては、そこに記載してありますような本県教育を取り巻く現状と課題を踏まえまして、新たな時代に求められる教育施策について、下段の真ん中辺になりますけど、点線で囲んだ内容になりますけれども、こういった教育の推進ということにしております。

そして、その上で、各施策を進める上で共通して関わる事項について、4項目を共通の視点として掲げた上で、具体的な施策や取組を整理していくこととしております。

2枚目の資料を御覧ください。

まず、現在の大綱からの変更点を「2 次期大綱の策定」というところに整理しております。

「有徳の人」づくりにつきましては、引き続き求められる方向性であると考えておりますので、現在の大綱に掲げる基本理念の「「有徳の人」の育成」を次期大綱でも掲げた上で、今後の教育の目指す方向性として、「誰一人取り残さない教育の実現」というものを併記する形としております。

現在策定中の県総合計画の後期アクションプランにおきまして、本県をSDGsのモデル県にするということを目指しております。県全体の取組として「誰一人取り残さない」、こういったSDGsの理念にも沿った基本理念としたところでございます。

「有徳の人」の捉え方でございますけれども、次期大綱では、「有徳の人」の具体的な人物像が「才徳兼備」の人であるという、これまでの実践委員会ですとか総合教育会議での議論を踏まえまして、表に記載してありますような表現に改めたいと考えております。

「有徳の人」づくり宣言につきましては、「誰一人取り残さない教育の実現」を目指して取組を進めていくことを明確にするということと、「才徳兼備」の人づくりという方向性を明確にするために、表に記載してありますような表現に改めたいと考えております。

次に、下段の計画についてでございますけれども、変更点は同じく2の次期計画の策定というところに整理をしております。

まず、次期計画で新たに掲げることとしている施策を進める上での共通の視点ですけれども、記載の4点を掲げたいと考えております。その上で具体的な施策や取組を整理してまいりますけれども、第1章から第3章の大柱については、「有徳の人」づくり宣言を踏まえまして、現計画を承継したいと考えております。その下になります中柱につきましては、教育の現状と課題を踏まえた見直しを考えております。具体的には、第1章では、「知性」だけではなくて、「感性」という言葉を明記することといたしました。

それから第2章では、「有徳の人」づくり宣言の2項目を踏まえまして、多様性の尊重ですとか、生涯教育というものを中柱に位置付けることといたしました。それから、人材育成に係る内容を1つの柱に整理を

| | |
|--------|---|
| | <p>することといたしました。</p> <p>それから第3章では、現計画で位置づけられておりますセーフティネットですとか、いじめ、不登校といったような施策について、第2章の「多様性を尊重する教育の実現」に移しまして、「命を守る教育」についても第1章に移して、この第3章は家庭や地域等による学びの支え合いに関する施策に限定することといたしました。</p> <p>本日、基本的な考え方をお示しいたしましたが、皆様からの御意見、あるいは総合教育会議や教育振興基本計画推進委員会での御意見を踏まえて、引き続き策定作業を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>以上で、事務局からの説明を終わります。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>先ほどからの議論もこの大綱と基本計画の考え方の中に相当取り入れられている、あるいは今後取り入れられるべきものが多かったと思います。さらに、全般的な観点から、この案につきまして皆様の御意見を伺いたいと思います。先ほど来の議論も踏まえて、それぞれ御意見をいただければありがたいと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>はい、森谷さん、どうぞ。</p> |
| 森谷委員： | <p>森谷です。よろしくお願いいたします。</p> <p>静岡県が「徳」という言葉を使うようになって10年以上たつと思うんです。最初この言葉が出てきたときもすごく感激しましたし、画期的なことだと思いました。こうしてコロナが蔓延し、それからまたあらゆる面でICTが広がっていくと、ますますこの「徳」ということを、これは理想として掲げるだけでなく、実際どのように実生活に「徳」を反映させていくかということがすごく重要になってくるかと思っています。</p> <p>なぜ重要になるかということ私の思う限り3つ申し上げます。</p> <p>ICTの活用で、今年この間からベストセラーになっている「スマホ脳」なんかに書かれているように、やはり脳に障害が起こることというのはいろんな脳科学の先生がおっしゃっていて、コミュニケーション等に問題が起こる。そうすると、そういう人たちがたくさん育っていくと、社会が全般的に乱れるのはもう自明のことなんです。</p> <p>それからもう一つは、国際化が進み、また英語教育が進んで、英語、英語と社会がなっていくと、今度は日本の良さの喪失につながるわけなんです。先ほど渡邊館長からも話がありましたように、今の日本は宗教的な軸足がございません。道徳的な軸足もないところへ来て、日本のよさがますます喪失していくと、これまた社会の混乱につながってしまう残念なことになり、それからまた教育の現場等で、先ほど言っていることと逆みたいと思われるかもしれませんが、自由度が増していくと、その自由度が増すに従って、やはり子供たちは乱れがちになってしまうんです。そうなったときに、やはり「徳」というものが全体のバラ</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>ンスを整えていく大切な鍵になっていくと思うんです。</p> <p>幸い、日本には宗教教育がなくても「徳」の教育というものが生活の中に根付いておりましたので、日本的なものを一つ一つ見直していくことで、先ほど渡邊館長がおっしゃっていたように、例えば日本語を丁寧に見直していくようなことで、かなりそれを維持することができると思っております。</p> <p>特に、今、古典不要論みたいなものがものすごい出ていて、特に古典文法の習得は実用性が無く無駄みたいなことを言われていて、ちょっと問題ではないかと思っております。</p> <p>この計画案を見てみますと、この1枚の紙の中に20回ぐらい「徳」ということが入っていて、今すごく力を入れてくださっていることがよく伝わってくるんです。</p> <p>ただ、まだまだ現場にありますと、静岡県が「徳」を基準にして教育をやっていることを意識している先生は多分ほとんどいらっしゃらないし、それから生徒のほうでも「徳」を軸にして自分たちは学んでいると感じている生徒も多分ほぼゼロじゃないかと思うんですね。</p> <p>なので、今を起点として、本気でどのように現場に「徳」を反映させていくか、言葉だけでなく、具体的なことをこれから本気で考えていかなければいけないと思っています。</p> <p>1つちょっと参考までに南米コスタリカのお話をしたいんですが、そこはとてもユニークな国家政策に踏み出した国で、火薬庫のような南米のど真ん中にあるにもかかわらず、軍隊を放棄しまして、その代わり平和国家として国連平和大学を誘致した国なんです。教育の主軸は当然平和教育なんです、具体的に民主主義と環境教育に力を入れているんです。</p> <p>そうしますと、子供たち、小学校高学年になりますと、自分の言葉で民主主義は何かとか、自分は環境のために何をやっているかということらをべらべらしゃべるそうなんです。</p> <p>それを振り返ってみますと、この“ふじのくに”も「徳」ということに関して、小学校高学年にもなれば、自分は「徳」というものをこのように捉えている、こういう工夫をしている、これを心がけていると言えるような小学生、中学生・高校生が育つように、具体的なことをお願いしていきたいと思っております。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、松村さん、どうぞ。</p> |
| 松村委員： | <p>ありがとうございます。</p> <p>今の森谷さんのお話、大賛成といたしますか、是非この方法でいきたいなと思っております。本当に静岡県が石川前知事のときから「富国有徳」というのはもうずっと言われているんですよね。今回の大綱もたくさんの</p> |

| | |
|----------|--|
| | <p>「有徳」という言葉が出ていますが、やはり具体的に実生活でそれをどう教えていかれるかというのは本当に大事だと思います。</p> <p>やり方はいろいろあるかと思いますが、前にも申し上げましたが、徳を学ぶというのは、人と人の触れ合いからだと思うんですね。生身の人と人の触れ合いはもちろんですけど、今森谷さんがおっしゃった、古典で出てくる昔の方々の言動に触れる、これも本当に素晴らしいことだし、そういうところから学ぶことが多いと思うんですね。</p> <p>例えば福井県ですと、橋本左内が出ていて、その著書「啓発録」から学んで、中学生のときですかね、みんな全員自分の志を書きたいんですね。静岡県にそういうきっかけがつかれるか分かりませんが、どちらにしても何か中学、高校のときに自分の進路、それから自分の目指す人間像みたいなですね、そういったものが少しでもつかめると素晴らしいと思うので、そういうきっかけをどこか授業とか、あるいは対外的な活動でも結構ですし、部活でも結構ですし、何かそういうきっかけがくれたらいいんじゃないかなと思います。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、藤田智尋さん、どうぞ。</p> |
| 藤田(智)委員： | <p>静岡県立大学4年の藤田です。</p> <p>先ほど森谷さんがおっしゃっていたような「徳」という考え方が10年前から出ているという話だったんですけども、正直私も10年前、多分小学生か中学生ぐらいだったと思うんですけども、そのときに「徳」という考え方が学校の中であつたかと言われると、ちょっと思い出せないぐらいなので、やはり学校というか、学生にはまだちょっと「徳」というものが浸透していないのではないかというふうに思いました。</p> <p>先ほどから話されているような教育格差だったりというところなんですけれども、私自身も両親が高卒で大学には行っていないんですけども、その中で勉強が大事だというふうに言ってくれて、大学まで行かせてもらったんですけど、そういった中で、やっぱり両親からの進路の情報不足だったり、周りの情報不足というのがすごくあるなというふうに思っていて、東京の大学に通っている学生の方と比べて、やっぱり将来ビジョンの解像度というのが全く違うと感じています。</p> <p>例えば、私の弟はサッカーをやっていて、ずっとサッカー選手になりたい、サッカー選手一筋でずっとサッカーをやってきたんですけど、現在、関東の高校に進学してサッカーをやっているんですけども、その学校で弟の先輩たちの進路を聞くと、やはりサッカー選手だけではなくて、そのまま海外に行く子もいるし、指導者に向けて勉強をし始める子だったり、サッカー選手以外の進路というのがすごくあって、それに弟も感化されて、ほかの進路を考え始めたりということもあるので、やはりいろんな就職であつたり、進路の道というのが、今のところ、静岡県だ</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>とちょっと少ないのではないかと思いました。</p> <p>なので、やはり高校だったり中学の間に、そういったキャリア教育、こういう仕事があるよというのをもっとたくさん教えてほしかったなと思いました。以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。</p> <p>選択肢を数多くという御意見ですね。ありがとうございました。</p> <p>マリさん、どうぞ。</p> |
| クリスティーヌ委員： | <p>今皆様のお話しされていることにつながりになっていくのではないかなと思うんですけど、「誰一人取り残さない」というSDGsの中での「No one left behind」というものの意味の中では、すごく分かりやすい言葉なんですね、「誰一人取り残さない」と、後ろに落ちている人を引っ張り上げて一緒にという。</p> <p>でも、SDGsの基本的な考え方の中では、この「No one left behind」というのが、一人一人、弱者であったり、むしろ恵まれていない方々とか、そういう方々の一人一人に向けて、小さく、細かくやることでのSDGsではないという認識をちゃんと持たなきゃいけないと思うんですね。</p> <p>結局、社会の中の経済的な、そして社会的な不平等の中で人々が取り残されていくので、それをどう改善するかということがSDGsのすごく大事な視点なんですよ。</p> <p>ですので、さっきのコスタリカの話もありましたし、さっき森谷さんがおっしゃった、環境と民主主義について、それをきちっと教えることによって取り残されなくなっていくわけなんですね。</p> <p>ですから、さっきのお話もありました、勉強の話もそうですけれども、情報が手に入ると、今あるすばらしい、静岡県はたくさんシステムのがあるんですよ、人が取り残されないためのシステムが。だけど、これをどう活用していくんだということをみんなが分かかっていなくて、見えていなかったりするわけですので、そのところがすごく重要で、例えば男女共同参画といったところで、女性たちが取り残されているところがあるわけなんです。ただ、しかるべきところにちゃんと出ていけば、ちゃんと取り残されずに引っ張っていただけることになっているのに、そういうところにどうやってコネクトすればいいかが分からないという状況だと思うんですね、実際には。</p> <p>ですので、そこのところをもう少し、私たちは「徳」をしているんだという、「徳」であるということの認識がないことは、自分たちがどう「徳」をしているかということの自覚感がないから「徳」というふうに感じていないんであって、それはもう少しきちっとPRしたり、又はこうやって困っているときはここに行った方がいい、あそこに行った方がいいという、そういうことの窓口がもう少し幅広く、なおかつアクセサ</p> |

| | |
|---------------|---|
| | <p>ブルな状況を作っただけが大事で、先ほど片野さんがお話しされた中ですごく重要だなと思ったのは、やっぱり分からないんですよ。</p> <p>分からないというところが一番大きな課題ではないかと思いましたが、そして親の所得の格差で困っているということではなくて、格差があるからこそ、こういう術があるんですということが伝えられると、そのために社会福祉もあるわけですし、それに対して、お年寄りの方々の中で、家で餓死して亡くなってしまふ。なぜかという、自治体にお世話になる方法が分かっていなくて、そして昔からのそういう誇りを持ったり、むしろ自分たちは人に迷惑をかけてはいけないという、とっても大きな日本社会の中での大きな私バリアだと思うんです。迷惑をかけてはいけないと思うからこそ人に聞けなくて、自分だけが苦しんでいるという、そこのところの格差ってどうやって改善していくかということが課題ではないかなという感じがいたしました。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。 ほかにいかがでしょうか。 はい、どうぞ。山浦さんお願いします。</p> |
| <p>山浦委員：</p> | <p>お願いします。</p> <p>先ほどの「誰一人取り残さない」ということですか、才能や個性を發揮できるということも含めてなんですけれども、すごく単純明快にシンプルに、子供自身をもっとちゃんと見ればいいんじゃないかとすごく思います。見ることと、あと「徳」も含めてですけど、さっきのキャリア教育もですけど、「見る」ということと「見せる」ということができればいいのかと思いました。</p> <p>片野さんが、環境は変えられないから自分を変える力をと、もし困窮なり困っている子がいればとおっしゃっていたんですけれども、学び合いというのが学校の中でも始まってきて、みんなで安心してチャレンジできたり、失敗する場というものがあれば、一緒に学んでいけるかなと思うんですけど、私、困窮者の方の支援をしていたときに、困ってしまうと本当にエネルギーを奪われてしまうんだなというふうに思って、エネルギーがなくなってしまうとやる気も全て失ってしまって、学びをどんなに提供されても、土台みたいなものがなくなってしまうと、厳しいのかなと思ひまして、その土台というのはやっぱりガソリンみたいなもので、大人の愛というか、ちゃんと見ているよとか、認めてあげることが必要かなと思います。東京学芸大学附属世田谷小学校のぬまっち先生という、子供のやる気をすごく引き出す天才的な先生のお話を聞いたときに、子供を認めてあげたり、褒めてあげるのは大事なんだけど、やっぱり認めるということは、よく見ていないと、これがよくできたねとか、最近困っているんじゃないのということが言えないか</p> |

ら、まずは見ることだということをしつこく教わってから、やっぱり見なきゃいけないなど。

先ほど、藤田尚徳委員がおっしゃっていた、コロナによって、うちの娘もそうなんですけど、修学旅行が駄目になり、公式試合が駄目になり、何かどうせ俺たちはとか、どうせ私たちはみたいな感じになってきて、ちょっとセルフネグレクト的になってきたんですよね。どうせ私なんてやったってみたいなことになってきて、いろんな生活面でのやる気みたいなものがちょっと失われてきているのを、自分の子供もそうですし、学校でもそれがすごく気になっていて、そこでもやっぱり見てあげて、できていることに目を向けて、見るということをして、認める、励ますということをやっぱり大人がやっていかななくちゃいけない。

でも、見る大人に余裕がなくて、あとはもうお母さんたちもいっぱいいっばいで、例えばスマホばかり見ていると子供を見れなくなっちゃう。子供もスマホばかり見ているとスマホ廃人みたいになってしまうというスマホ脳の本もありますけど、何かそこら辺がすごく、今後のことがすごく心配になってきてしまいます。

徳を積むに関しても、大人が徳を見せるしかないなと思いますし、夏休みの寺子屋というのを私、毎年やっているんですけど、そこで挨拶と礼儀と来てくださった方にお礼状を必ず書く、宛名書きも子供が書くということをして毎回、毎日毎日、十何日間ってやるんですけど、そうすると最初は「えー」とか言っているけど、自己紹介もさせるんですけど、毎日毎日やっていくと板に付いていくということがあって、やっぱり板に付くことで自分が自信を持っていき、できなくてもチャレンジしたり、失敗したりしてもオーケーという場所があれば、何かおのずとやる気も徳も付いていくのかなと。

それにはやっぱり大人の愛が必要なのかなということをして非常に思います。先ほどの学生さんの藤田さんの話もそうなんですけど、情報量がないというのは、やっぱり大人がそれを知って教えてあげたり、あなたもしかしてこんなことで悩んでいるんじゃないのとか、サッカー選手って言っているけど、もしなれなかったらどうするのという言い方はちょっとあれですけど、先ほど星野校長がおっしゃったみたいに、どんどん取りこぼされるといふか、もっとできたら残っていたけど、やれないからどんどん落ちていくというところがあると思うんですけど、でもその周りにどんな仕事があるかということはやっぱり教えるというよりも見せる。

私自身がキャリア教育をやっているのは、アナウンサーに憧れて東京に行って、きらきらしたアナウンサーというところを目指していったんですけど、実際にはタモリさんの番組のADをやりました、そのときにアクリル装飾という仕事を見かけたんですね。タイムキーパーさんとか、音響効果さんとか、ビデオエンジニアさん、いろんな仕事が周りであって、かつらとか、大道具とか、小道具とか、いろんな人がやってこれが成り立っているんだということが分かったときに、アクリル装飾と

| | |
|---------------|--|
| | <p>いう仕事は、私がどんなに美術が好きでも、静岡の田舎にいたら憧れることもできないなと思ったんですよ。見ることのできないものは憧れることもできないなと思ったので、当時二十何歳のときにキャリア教育をやろうと決めて、今やっています、子供たちにだからいろんな選択肢もあるし、これの周りにこんなふうに支える仕事が、サッカーだったらトレーナーさんだとか、整備する人だとか、試合を運営する組む人だとか、いろんなものがあるんだよということを教えてあげたいなと思っていて、それもやっぱり大人がそれに気づいてあげたりとか、才能もそうです。あなたこれが何かすごいすてきだからダンスをやってみたらみたいなことをちょっと押し上げる。それで本人がやめるといったら、それはそれで丸ですけど、そこでもやっぱり励ましか、仲間同士の何か愛みたいなのがあれば徳も上がっていくんじゃないかなというふうに非常に思いました、皆様のお話を聞いていて。ありがとうございます。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。 宮城さん、どうぞ。</p> |
| <p>宮城委員：</p> | <p>学校現場で、特に生徒が静岡県教育では「徳」を大事にしているんだということをみんなが感じるようになるというのはとても大事だと思うんですけど、じゃあ「徳」を大事にしているということの具体的な中身は何かなど。</p> <p>僕の立場では2つあると思っています、1つ目は、頻繁に僕言っていますけれども、人と違うことを考えてもいいんだ、横並びじゃなくていいんだということですね。本当に僕らの中学、高校の頃よりも、今の子どもの方が空気を読むのが上手で、なるべく浮かないようにしているんですね。そして、よっぽど図抜けた人は、あの人たちは違うからというふうに見るんだけれども、よっぽど図抜けた人以外は、とにかく横で頭を出さないようにというふうになっている。だから、とっても息苦しい、なかなか居場所が見つけられない。ちょっと違うと思うと、もう居場所が見つけられないんです。人と違っていいんだということ。</p> <p>その一方で、もう一つ僕が思うのは、倫理というのでしょうかね、ethicsというか、そこはきちんと守っているぞ、そのことによる誇りを得るということ。私たちは、例えば勉強ができない子もいる、スポーツがすごい下手くそな子もいる。でも、自分は倫理はきちんと守れているんだという、そのことを自覚できると、人間として最低限の誇りみたいなのは維持できると思うんですよ。</p> <p>だから、僕たちの学校では、私たちの学校では、人間として必ずここだけは守らなくちゃいけないという線は守っているんだよねという、この誇りを持てれば、勉強ができないとか、いろいろなコンプレックスはあるけれども、セルフネグレクトにはならないで済むんじゃないか。</p> <p>今やっぱり、先ほどもお話があったんですけど、ある年代より後の若い</p> |

| | |
|----------------|---|
| | <p>人たちは、日本の社会全体の中で、ものすごく割を食っているという感覚がありますよね。これを何とかしないと、この先が本当に大変だと心配になるのですが、でもその一つの手掛かりとして、倫理においては私たちはすごいちゃんとしているんだよねという何か自負を持ってもらえるといいと思いました。以上です。</p> |
| <p>矢野委員長：</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>恐らくあと二、三時間やっても議論は尽きないほどですが、時間が来てしまいました。今日の2時間を通じて大変共通した意味合いの言葉がいくつか出てきたと思うんですね。片野さんが言われた「自分を変える力」。宮城さんや藤田さんも言われた「引き出す力」ですね。それから、「言葉の力」ですね、認める、あるいは敬語なんかも含めましてね。そして、子供たちが持っているよきものを引き出す力あるいは気付きですね、本人の気付きも含めまして、今日は一貫していろいろな角度から御発言がありました。</p> <p>池上さん、いかがですか。いろいろと御経験の中からお話しいただけますか。</p> |
| <p>池上副委員長：</p> | <p>子供たちがSPACで2時間非常に興味深い稽古をしているのを見せていただいた後、30分ほど時間をいただいて、子供たちと話をする機会をいただきました。</p> <p>基本的には、子供たちからすれば、何だか訳の分からんおっさんがじいっと自分たちのことを見ていると、不審なわけですね。私自身が高校時代どんなことを大事に思っていたか、私はジャズをやっていたわけですが、やっぱりそういう自分の高校時代にこんなことを大事にしていた、皆さんも今演劇が大事だよねというところで共通の地盤を共有して、「みんなはどんなことを将来考えているの」というような話を展開しました。</p> <p>そういう意味で言うと、引き出すというときに、これはよく言う上から目線ではやっぱり難しいですよ。何らかの形でその人と同じ立場に立って、全部じゃなくていいと思うんですが、どこかで、ああ、この人と自分とつながっているなという意識を持てば、子供たちは心を開いてくれて、こちらのお話を聞いてくれるんじゃないかと思いました。</p> <p>1つだけ、時間をいただきましたので、今日私非常に大事だなと思ったのは、この2時間のようなこれだけの熱量を県民の皆さんはほとんど知らないということですね。熱伝導というか、こういう議論がなされている、あるいはこんなことを今静岡県の教育において考えようとしているんだということを何らかの形でやっぱり語られた言葉で伝えていく、皆さんと意見を交わすというような、やっぱりライブの感覚、これを今後、大事にしていくと、もっともっと共感してくださる方が増えていくんじゃないかなと思います。それが学校現場の中でも、あるいは学校の</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>外でも増えていくんじゃないかなと思って聞いておりました。 以上です。</p> |
| 矢野委員長： | <p>ありがとうございました。 それでは、予定の時間になってしまいましたので、今日の議論はここで終わることにいたしますが、終わりに当たりまして、知事から一言お願いします。</p> |
| 川勝知事： | <p>まずは矢野委員長、また今日御出席の委員の皆様方、貴重な時間、2時間しっかり使っていただきまして、出していただきましてありがとうございました。</p> <p>冒頭、星野さんの学校の見学が実のあるものであったというのは、大変うれしいことでございます。</p> <p>そしてまた、それが今度、公立高校の掛川西高校にこれから波及していくということで、いいものは公私の学校の境を越えて波及していけばいいということで、また次の展開がすごく楽しみになった次第でもあります。</p> <p>それから、星野さん絡みでいえば、4月に何か新しいものを立てられるということで、主要5科目は人間が生きる上で本当の主要のうちの1つであるということで、英・数・国・理・社ということに偏ったものにして思い切ってメスを入れられると。これは大変勇気の要ることでございます。そういう試みをなさっておられる星野さんに敬意を表したいというふうに思います。</p> <p>ちなみに、日本、様々な災害に見舞われておりますけれども、いわゆる天変地異の災害ですね、東日本大震災の前に阪神淡路大震災を迎えまして、そして国が防災士というものを作ったわけですが、これは兵庫県が言わば基準を作って、それを日本中の人たちに与えるということだったんですけれども、防災先進県としての静岡県は、独自に防災士の資格だとか、ジュニア防災士という資格だとか、これがどんどんと広がるものですから、何と、兵庫県の防災のものすごいお金を掛けた施設も持っていらっしゃるんですよ、そこのトップの方が来られまして、勝手に防災士とかジュニア防災士を使うなどと言ってこられたわけです。だけど、もうデ・ファクトで機能しているものですから、向こうのものはどんどん今影が薄くなっておりまして、静岡県の防災士のデファクトの資格が行き渡っております。</p> <p>教育も同じで、これから従来の教育の在り方が根本的に変わろうとしておりますので、これから教育振興基本計画、また大綱を作るに当たりまして、この「徳」というのは言葉にするのは難しいです。もちろんこれは漢字ですから、これに当たる大和言葉って何ですかということ、はたと困るんじゃないですか。あるいは、中身として仁・義・礼・智・信という。「仁」も漢字ですから、「仁」は思いやりだとか、慈しみだと</p> |

か、こういうふうには言えいいでしょうけれども、「仁」には「仁」の言葉あります。同じように、それぞれの言葉には、言葉の持っている社会的な意味というのがあります。

おそらく星野さんの人生に大事なものはラグビーだったと思いますけれども、ラグビーはジェントルマンのスポーツだということで、ジェントルマンが持つべきものとして、これは当然英語で言っているわけですね。Passionというのが入っているわけですよ。先ほど熱量とか言っていました、Passion。それから、Disciplineというのが入っているわけです。5つあるわけですけど。そして、Integrityというのが入っているわけです。そしてSolidarityと。そして最後、Respectと、こう入っているわけですけども。これを日本語に訳したり漢字にしても、やっぱり持っている、ジェントルマンがぱっとそれを言われて、ふっと気付くというふうなものとは違うわけですね。ですから、英語の授業で、ラグビーなんかのおそらくコミュニケーションでは、Integrityを失ってはならんと、Disciplineが欠如しているとか、そういう言葉が普通に使われているのではないかと、あたかも漢字の重要な言葉が使われているようにですね、そういうことではないか。

ただ、この「富国有徳の人」とは何かについては、もう一回これはやっていく必要があると思います。我々は、「文・武・芸」三道の鼎立、「文・武・芸」というのは、「文」はAcademyです。そして、「武」はAthleticsです。そして、「芸」はArtです。これはもう芸術だけで見なくて技芸という意味で3つのAですね。Academy、それからAthletics、それからArtと3Aで、これはどれも皆重要であるということは、日常、皆経験、知っているわけですね。

こうしたものを通じて、いかに人のため、世のために生きれる、そういう力を持った人を作っていくかということですが、ともあれ、何をおいても貧困が人間の才能を伸ばさず、持って生まれた生きる力をそぐことがあってはならないということだけは、今日の片野さんの御指摘で、我々共通認識として持ったんじゃないかと思います。

こういう人たちを一方で視野に入れながら、先ほど、松村委員が橋本左内の話をされておりましたけれども、ちなみに、どなたかがまたお金のある人は出したらどうだろうとおっしゃいましたけれども、皆さん御存じですか、懐徳堂というのがあったのは。これは大阪で18世紀につくられたものですけども、有力な町人たちがお金を出して、富永仲基とか、山片蟠桃だとか、こういうすごい人を作ったところでありですけど、これは漢学のいわゆる昌平坂学問所と並び称されたものですよ。

ちなみに、それはもちろん資格なんかありません。たまたま自分の庭にできた、富永仲基ですね、10歳のときにそれができたわけです。15歳のときに、儒学を教えるもともと学校だったわけですが、「説蔽」という本を書きまして、これは儒学を学説的に批判したもので、その先生、これは三宅石庵というわけですが、その人は一番最初の懐徳堂の学長で

| | |
|--------|--|
| | <p>す。その学長は、それを読んで極めて不快に思ったわけでは、自分が信じていることと全く違うことが冷静に書かれていたわけです。儒学批判だったわけです。だから、15歳でこれを作っているわけです。その後もこの人は31歳で「出定後語」というのを書いて死にますけれども、仏教を完全に、大乘仏教は仏教じゃないとまで言って、これは20世紀の仏教学批判を先取りした人だった人でありますけれども、全部独学ですね。</p> <p>ですから、全く私は静岡県は独自に、実学とか、あるいはArtとか、Athleticsと言っていますけれども、これを作り上げていったらいいというふうに思っております。今、政治家の言葉が非常に足りないということを渡邊先生も言われていました。本当にそう思います。ですから、これから静岡流の徳のある人づくりをやっていきたいというふうに思っております。</p> <p>ですから、みんなで知恵を出さないといけないので、この熱情は必ずスピルオーバーして社会に行き渡るはずで、そのように信じておられます。そのような方として皆様方を選んでいただいております。</p> <p>今日は、その息吹を感じる2時間ありがとうございました。誠にありがとうございました。御礼を申し上げます。</p> |
| 矢野委員長： | <p>どうもありがとうございました。</p> <p>今日の論議の中身は、次の総合教育会議に諮りまして、問題提起してまいります。新しい大綱、あるいは計画ができたとしても、それをどう具体化するかということが一番大事でございますので、そういう意味で、これからの論議をしっかりと深めてまいりたいと思いますので、どうぞ皆さん今後ともよろしくお願いいたします。今日は長時間ありがとうございました。</p> |
| 事務局： | <p>ありがとうございました。</p> <p>事務局より事務連絡でございます。</p> <p>第3回目実践委員会でございますが、11月22日を予定してございます。詳細につきましては、後日事務局から皆様に御連絡いたしますので、よろしく申し上げます。</p> <p>本日は長時間わたりありがとうございました。</p> |